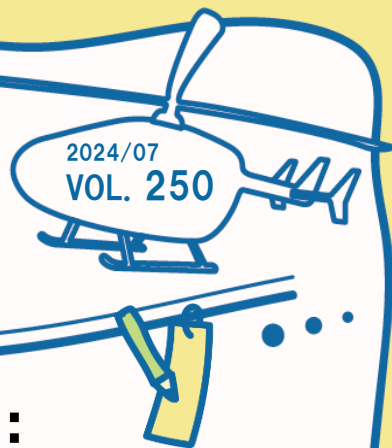




きずな。

診療のご案内

「思春期の子どもの起立性調節障害： 立ちくらみ 朝起き不良 頭痛 動悸」



小児科 部長 榎 日出夫（えのき ひでお）

認定医・専門医・指導医

小児科専門医・指導医、小児神経専門医、

てんかん専門医・指導医、

日本臨床神経生理学会専門医（脳波分野）・指導医、

頭痛専門医、漢方専門医

「起立性調節障害」は小学校高学年から中学生の、いわゆる思春期の子どもに生じる自律神経系の病気で、有病率は中学生の1割とされています。朝、睡眠から覚醒状態への自律神経機能の切り換えがスムーズに行われず、起立時の循環調節が障害されます。このため脳への血流供給が滞り、立ちくらみ、めまい、頭痛を引き起こすのです。

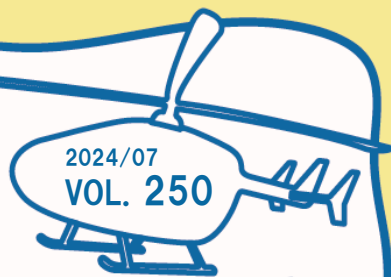
症状は立位で増強し、失神を生じることがあります。このほかに動悸、腹痛、顔色不良、倦怠感、乗り物酔い、食欲不振などの多彩な症状もみられます。なかなか起き上がることができず、登校に支障をきたし不登校状態となることもあります。ところが午後になると症状は軽減し、夜には活気が増して夜更かしになりがちです。

診断には詳細な問診に加えて「起立試験」を行います。これは臥位と立位で血圧と脈拍の変化を確認する試験で、外来で簡便に行うことができます。

治療に際しては、まず「怠け癖」「学校嫌い」ではなく身体の病気であることを本人と保護者、学校関係者に理解してもらうことが重要です。叱りつけても治りません。適切な日常生活指導と必要に応じた薬物療法で多くの場合には数か月で改善します。しかし、長期に続く重症例では、心理的なサポートが必要となる場合もあります。

起立性調節障害の診断・治療については、当院小児科外来にお問い合わせください。



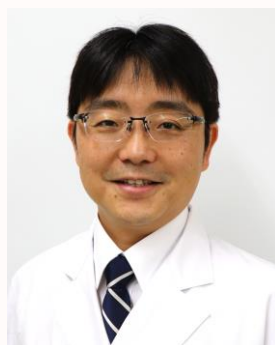


新任部長のご挨拶

小児科 部長 三浦 真澄（みうら まずみ）

認定医・専門医・指導医

日本小児科学会小児科専門医、
日本周産期・新生児医学会専門医・指導医、
出生前コンサルト小児科医、臨床研修指導医



2024年6月1日付けで川崎医科大学 小児科学教室教授ならびに同附属病院 小児科部長を拝命いたしましたので、謹んでご挨拶申し上げます。

私は2000年に鳥取大学医学部を卒業し、鳥取大学医学部附属病院の小児科で勤務を始めました。その後、津山中央病院などで小児科の研修を行いました。小児診療の中でも新生児医療を専門にすることを決め、埼玉医科大学総合医療センターや東京女子医科大学八千代医療センターで経験を積み、2011年からは鳥取大学医学部附属病院で新生児医療に携わってきました。

この20年で新生児医療は大きく進歩し、診断技術や治療方法の向上により新生児死亡率は大幅に低下しています。最近では、死亡率の低下に加え、後遺症なく健康に成長することが求められており、新生児医療の質と安全の向上を目指して努力してまいります。また、地域の周産期医療施設の皆様と顔の見える連携を推進していこうと思います。ご家族の皆様と一緒に、わかりやすく、より良い医療を行うよう努めてまいりますので、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

医師の動き

＜新任医師 2024年7月1日付＞

産婦人科 坪内 弘明（つぼうち ひろあき） 副部長

＜退職医師 2024年6月30日付＞

産婦人科 松本 良（まつもと りょう） 医長

川崎医科大学附属病院 地域医療連携室
〒701-0192 倉敷市松島577

TEL : 086-464-1567

FAX : 086-464-1166

MAIL : renkei@med.kawasaki-m.ac.jp

